

若い力を発揮して地域農業の発展を目指す



後継者不足が課題となっている中、加美町小野田原地区で農地を集積し法人化した(株)原グリーンサービスに若い農業経営者が誕生した。

現在、構成員8人。主食用米37ha、飼料用米30ha、大豆6ha、加工キャベツ1.6ha、春菊などを栽培している。法人化後、順調に規模拡大しており、若い世代の雇用を

積極的に行ってきた。

今年1月には代表取締役を務めていた佐々木慶信さん(67)が辞任し、相澤磨美さん(28)が新たに就任。法人化10年を区切りに世代交代を狙ったものだ。相澤さんは19歳で入社。「農の雇用事業」の助成を受け研修生としてスタートした。佐々木さんは「固定概念に捉われず、人の扱いが長けている。相澤さんには、自分が働ける間に農業の経営者としての経験を積ませたい」と語る。



相澤さんは「まさか社長になるとは思っていなかった。基盤をじっくりと固め、社員全員のチームワークを重視して現実的な経営を心掛け、農業だけで食べていけるようにしたい。地域農業の発展にも貢献したい」と抱負を語っていた。